こどもコミュニケーションフォーラム（第7･8･9回）総括

The summarization of “Childhood and Communication Forum”

こどもコミュニケーション研究所長
浅川　陽子

1. はじめに

江戸川大学こどもコミュニケーションフォーラムは，子ども達の健全な成長や発達を促すために，子ども，家庭，学校や園，施設や地域をつなぎ，相互に協力，情報交換をする人々の学びの場である。地域社会における子どもの保育・教育・福祉や子育て支援に貢献することを目的として，江戸川大学こどもコミュニケーション研究所が主体となって行う教育研究活動である。

2013年度から江戸川大学こどもコミュニケーション研究所（2016年度にセンターから研究所に名称変更）が主催し駒木学習センター共催，流山市等の後援を得て，毎年，子どもに係る現代的なテーマをもって実施してきた。

さて，母体であるこどもコミュニケーション研究所とは，こどもコミュニケーション学科全教員から成り，保育学，教育学，心理学，情報学，社会学等を基礎として異なる専門分野の実践研究者が協働し，よりよい保育教育研究・保育者育成研究を推進するための組織である。

その使命は，江戸川大学におけるこどもコミュニケーションに関する研究を統括して学生の教育に還元すること，地域社会における子どもの保育・教育・福祉・子育て支援等に係わる事業に積極的に貢献することであり，現在は6部門構成で実践研究活動を展開している。

第1回フォーラムについては2013年度『教育総合研究』第2号（江戸川大学教職課程センター），第2回・第3回フォーラムについては2014年度『教育総合研究』第3号（同上），第5回・第6回については2018年度『江戸川大学こどもコミュニケーション研究紀要』第1号に成果と課題をまとめた。

本稿ではその後の第7回・第8回・第9回フォーラムについてふり返り総括を行う。

2. 第7回こどもコミュニケーションフォーラムについて

【メインタイトル】子育てに「もう遅い」はありません

【サブタイトル】どの子も伸びる共有型子育てのススメ

【講演者】内田伸子（発達心理学）

【日時】2017年11月25日（土）14時～16時
江戸川大学B棟　メモリアルホール
14時　はじめの言葉
14時5分～15時40分　内田伸子氏の講演
15時40分～15時55分　参加者との話し合い
16時　終わりの言葉

【内容】江戸川大学こどもコミュニケーション研究所顧問の内田伸子氏（お茶の水女子大学名誉教授）の講演会を核とした話し合いの場である。

内田氏は，発達心理学者として長年にわたり，多くの子どもたち，親たちの研究協力を得て継続的で実証的な研究を積み重ねて来られた。その研究結果から導きだされた「子育てにもう遅いはありません」という温かく力強いメッセージには，的確な調査や実験のデータに基づいたものであり説得力がある。子育て中の親はもとより，広く子どもたちの育成に係わる方々に対しても大きな励ましと実践へのヒントになる内容であった。

【ふり返り】

フォーラムの来場者は約100名である。

講演会に来場した方に，アンケートにご協力いただいた。その一部を以下に掲載する。

・脳科学や心理学の，自分にとっては難しい内容だったが，あっという間に時間が過ぎて，よい勉強になった。
・子育てに，決まった道のりはないということ。一人一人を尊重して，共感して，繰り返しやってよいこと，いつでもやり直しが効くという話にすごく感銘を受けた。説得力があるお話でした。
・脳科学や心理学の研究成果をわかりやすくご講義いただき，ふだんなんとなくそうかなあと思っていることがはっきりした感じがして，とてもありがたい学びの機会でした。
・学生さんに，もっと来てもらいたい聞いてもらいたい内容だと感じました。

以上の参加者アンケートなどから，若い世代にもっとフォーラムを活用してもらえるよう，広報や日時の設定に工夫する必要があることがわかる。それを，今後の課題としたい。

3. 第８回こどもコミュニケーションフォーラムについて

【メインタイトル】平和のためにできること
【サブタイトル】ともに生きる　平和・いのち・人と動物の絆
【講演者】大塚敦子（フォトジャーナリスト）
【日時】2018年11月3日（土祝）11時～12時30分
江戸川大学Ｂ棟　メモリアルホール
11時　はじめの言葉
11時５分～12時15分　講演
12時15分～12時25分　参加者との懇談会
12時30分　終わりの言葉
【内容】2016年実施した第6回「いのりの石」絵本フォーラムに続き，「平和のためにできること」を大テーマとした。アメリカシアトルを中心に取材と執筆活動に精力的に取り組むフォト・ジャーナリスト大塚敦子氏をお招きした。

内容は，大塚氏が取材した内戦後の子ども達の写真や，病院で闘病する子どもの姿をもとに，ドキュメンタリータッチの著作を通して語られる人と動物の絆についての講演である。お話を聞いたあと参加者みんなで平和やいのちの大切さについて考え話し合う機会をつくった。

大学の学園祭のイベントのひとつとすることによって，多くの市民や学生が気軽に参加できる講演会フォーラムとなることを期待した。

大塚氏によると，近年の取材テーマは，お互いのいのちを尊び，平和で，誰も置き去りにしない社会をつくるための試みである。人と動物の絆には人の心を開き，そのような社会に近づけるための大きな可能性があると言う。難病と生きる子どもたち，虐待を受けた子どもたち，犯罪や非行をした人たち，そして戦争で破壊された社会などを再生するために，日本や世界でどのような取り組みがおこなわれているのか，ご自身が撮った写真や本をとおして熱く静かに語ってくださった。講演に先立ち，参考図書の紹介があったので，研究所で購入して，当日会場で公開したところとても好評であった。

参考図書：『犬が生きる力をくれた～介助犬と人々の物語』（岩波書店）
『はたらく地雷探査犬』（講談社青い鳥文庫）
『いのちの贈り物～犬，猫，小鳥，そして夫へ』（岩波書店）
『刑務所で盲導犬を育てる』（岩波ジュニア新書）

【後援・広報】
後援：流山市教育委員会・流山市社会福祉協議会・江戸川大学駒木学習センター
広報：駒木学習センターの後期パンフレットにちらしを挟み込んだ

「広報ながれやま」掲載，社福関係団体にちらし配布，ウェブページでも紹介した。

市内小中学校（保護者）へのちらし配布を行った。

【参加者】約120名
【ふり返り】感想アンケートより，以下に一部をまとめてみる。

・大塚氏が撮った写真に感動しました。内戦が終わったあとの子ども達の優しい笑顔に癒され，戦争のむごさを逆につきつけられるようで涙がとまりませんでした。
・病院で闘病する子どもの姿を追うことには，きっと辛さもあったことでしょう。でもカメ

ラを通して，生きるということのすばらしさを考えることができました。
・人と動物の絆，というテーマに惹かれて，来ました。ドッグセラピーに興味があります。動物と触れ合うことが人間のエネルギーを高めること，よくわかりました。自分の実感でもあります。
・大塚氏の静かな語り口のなかに，戦争はいけないものだという強いメッセージが隠れていることにすばらしいと思いました。
・ふだん，何気なく健康に平和に生きている私たちの幸せをかみしめることができました。ありがとうございました。

以上のような参加者の声からわかることは，「写真家」という大塚氏の仕事の奥にひそむ「願い」を，参加者と確かに共有することができたという喜びである。それは，命の尊さであり，平和を希求する気持ちと行動である。

これからも，このように大きなテーマを研究所フォーラムとして追究していきたいものである。

4. 第9回こどもコミュニケーションフォーラムについて

【メインタイトル】みんなの学校から，みんなの社会へ　映画『みんなの学校』上映会
【サブタイトル】すべての子どもに居場所がある学校をめざして
【日時】2019年11月3日（日）11時～13時30分
江戸川大学B棟　メモリアルホール
11時　はじめの言葉
11時10分～12時50分　映画の上映
その後，参加者とのコミュニケーション
13時15分　終わりの言葉
【内容】今回は，平成25年度文化庁芸術祭大賞を受賞した映画『みんなの学校』を見て，参加者とともに「すべての子どもに居場所がある学校」をめざす公立小学校の実践に学び，現場からの教育改革について考えてみた。

大学の学園祭のイベントのひとつとすることによって，事前予約なしで興味のある市民や学生が気軽に参加できる上映会となることを期待した。

また一方で，早めの広報を心掛けた。夏休み明けに市内小中学校保護者にちらしを配布し，事業の周知に働きかけた。

『みんなの学校』（映画について）

大空小学校がめざすのは「不登校ゼロ」である。特別支援教育の対象となる発達障害がある子も，自分の気持ちをうまくコントロールできない子も，みんな同じ教室で学んでいる。普通の公立学校だが，開校から6年間，児童や教職員だけでなく保護者や地域の人もいっしょになって，誰もが通い続けることができる学校を作り上げてきた。

そもそも学びとは何だろうか？

あるべき公教育の姿とは？

大空小学校の実践には，そのヒントが隠れている。映画で「学校参観」して，一緒に考え合った。

映画からわかることは，大空小学校の実践は「子ども達のどんな状態も，それぞれの個性だ」と捉える教育観に支えられている，ということである。

ともに歩む教職員や保護者たちの苦悩も映し出されており，ありのままの日常の様子に，教育者として共感的に引き込まれ，うなずき涙ぐむ参加者の姿も見られた。

映画会終了後，特別支援教育や個人的な子育ての悩みに関する相談があり，残って話をするなど，熱心な市民の皆様とのコミュニケーションを深めることができた。

【参加者】一般市民・子ども，保育教育・社会教育団体関係者，学生（1年生全員，他）120名
参加方法：当日先着順　　参加費は無料
問い合わせ先：江戸川大学駒木学習センター
【後援・広報について】後援：流山市・流山市教育委員会・流山市社会福祉協議会
共催：駒木学習センター
広報：市内小中学校へのちらし配布，近隣保育・子育て，教育関連施設130箇所へ郵送
「広報ながれやま」掲載依頼，関係団体にちらし配布，他
【ふり返り】参加者アンケートから，以下にまとめてみる。

・学校は1人1人が作るんだという言葉には，自ら変えることができるのだという発見がありました。参加して良かったです。
・どんな子でも受け入れて，子ども達同士のつながりを大切にしていました。周りの子も先生も学ぶことがあると思い感動しました
・笑顔で過ごせる学校を作っていきたい。校長先生が全身全霊で接している姿が本当にすばらしい。
・リーダーの考え方や行動で社会が変わる姿に衝撃を受けた。これは，学校だけでなく，会社などでもいえることだと思いました。
・障がいをもつ子と普通の子が（普通って何だろう？）一緒に学ぶのがぼくには珍しく思え，このようなかたちもあるんだと勉強になりました。
・一番印象に残っているのは，暴力や暴言をふるっていたカズキくんのことです。先生たちの対応といい，仲直りのさせ方といい，実に生徒主体とさせていました。自分たちでいい悪いの判断ができるようにしていて，とても良い教育方法だと感じた。もしこれから私が勤務する先に，このように悩みを抱えている子たちがいたら，全力で真正面からぶつかっていきたいと思う。
・人とコミュニケーションをとることが少し劣る子たちも，優しさや個性をもっていて，それを引き出せる場をつくることはできるんだと思いました。
「不登校ゼロ」というキーワード，これは，人と違う考え方を持った人どうしが集まる学校では正直難しいと思いますが，それについてどれだけ深く一人一人が考えられるかが，学校教育の環境づくりに必要なんだと思いました。
・私が先生になったら，みんなが笑顔で過ごせる学校をつくっていきたい。この映画を見れてよかった。
・ひとりひとりが受け入れられず，すぐに責任を押し付け合う現代ですが，子どもは孤独な思いをすると思います。私たちは自分自身の先入観や物差しをふり返り，それが子どもを伸ばすことにつながるのか，阻害する要因にならないのか，よく考え，自分の心で相手を理解していけたらと思います。協力し合いながら共に生活できる学校として多くのことを学べたと思います。ありがとうございました。
・子どもとの接し方に，先生方が悩む姿にすごい感動して，自分が将来に生かせるかを考えさせられました。
・職員一人一人が生徒を見守る。職員同士も注意しあうことも大切だとわかりました。フォローしあう，言葉でちゃんと伝えることの大切さを教えること，それを自分たちも実現する姿勢が必要です。
・大空小学校の全校集会で校長先生は，子ども達と話し，子どもを名前を呼んで指し，意見させていた。温かさがあった。私が経験した全校集会では，そんなことはなかった。
・先生がチームになって仕事をする。子どもを見る目をクラス以上に広げて，良い考えや解決をしていく。子ども達が変わるのは，学校全体が考えて行動しているから。教育とは何なのかを学べた。
・日本の社会全体が，大空小学校のような考えを持った人であふれると良き日本になるんじゃないかなとしみじみ考えてしまいました。
・校長先生が「どれだけ自分の力を伸ばす努力をしているか？」と若い先生に言う言葉が印象に残りました。
・周りの見る目が変わったから，学校に通えるようになった。子どもにとって一瞬一瞬はほんもの。
きょう，鉛筆がすりへってるだけでうれしい，など，心にのこる話でした。
・すべての子ども達の可能性を信じ，成長を見守り，背中を押してあげる。それが子どもに関わるすべての大人のなすべきこと，責任だと思いました。
・支援の必要な児童も，そうでない児童も，先生方も皆学んでいく姿勢がよかったです。
・子ども達の教育について，改めて考えさせられました。これからの子ども達とのふれあいの参考にさせてもらいます。
・全力を注いでいる先生方の給与が見合わないことに目を向けない社会は怖いと思った。

・映画を見ながら，何度も涙がでてしまいました。
こんな学校がもっと増えていくといいな。
・この学校を卒業した子ども達が，どのように育っていくのか興味があります。
・教育に携わっている者として，今，自分にできることは何かを改めて考えなおしていきます。

以上のような参加者の声から，大人がともに学ぶよい機会となったことが確認できる。事前広報として市内小中学校にちらしを配った効果が高いこともわかった。今後の事業の参考としたい。

江戸川大学こどもコミュニケーション研究所主催
第7回こどもコミュニケーションフォーラム
江戸川大学こどもコミュニケーション研究所顧問　内田伸子氏　講演会

子育てに「もう遅い」はありません

～どの子も伸びる共有型しつけのススメ～

後援：流山市、流山市教育委員会、流山市社会福祉協議会

開催日時 2017年 11月25日(土) 14時～16時

開催場所 江戸川大学 B棟 1階 メモリアルホール

定員 200名　**参加費** 無料、事前申し込み必要　※幼児（2～6歳）の一時預かりは500円でお受けしています。事前申込み必要・先着5名まで

子どもの創造的想像力や思考力を伸ばす子どもとのかかわり方や育て方についてお話します。内田氏は発達心理学者としてたくさんの子どもたち、親たち、その関わりのあり方について調査研究を積み重ねて来ました。その成果から導かれる「子育てにもう遅いはありません」という温かく力強いメッセージは、子育て中の方々はもとより、広く子どもたちの保育・教育に係わる皆様にとって大きな励ましやヒントになるに違いありません。

ご家族そろって、また職場の方々と誘いあって、江戸川大学メモリアルホールで土曜日の午後のひととき、心わくわく楽しく学んでみませんか。

内田伸子氏 プロフィール

お茶の水女子大学大学院修了、学術博士。専門は発達心理学、保育学。言語発達や認知発達の研究に従事し、ベネッセの「しまじろうパペット」考案、マルチおもちゃの監修、NHK『おかあさんといっしょ』の番組開発に携わるなど、多方面で活躍。現在、江戸川大学こどもコミュニケーション研究所顧問、十文字学園女子大学特任教授、お茶の水女子大学名誉教授、福岡女子学院大学大学院客員教授。『発達の心理～ことばの獲得と学び』サイエンス社、『子どもから見た世界～誕生から6歳までの子育て・親育ち』春秋社など多数

参加申込み方法

ホームページからお申込みいただけます

トップページの「イベント・講座」をクリック

イベント・講座ページの「第7回こどもコミュニケーションフォーラム」をクリック

第7回こどもコミュニケーションフォーラム案内ページの「申し込みフォーム」をクリック

お電話でのお申込みも受け付けます

TEL：04-7152-9908（平日9時～17時）

問合せ先

江戸川大学企画総務課
〒270-0198　千葉県流山市駒木474
TEL:04-7152-9908（平日9時～17時）　FAX:04-7153-5904

江戸川大学こどもコミュニケーション研究所・
メディアコミュニケーション学部こどもコミュニケーション学科共催

後援：流山市教育委員会、流山市社会福祉協議会、江戸川大学駒木学習センター

第8回こどもコミュニケーションフォーラム

『ともに生きる 平和・いのち・人と動物の絆』

フォトジャーナリスト 大塚敦子氏 講演会

開催日時 2018年11月3日(土) 11時～12時30分

開催場所 江戸川大学 B棟 1階 メモリアルホール

定員 150名 先着順（事前申込み不要） 参加費 無料

※学園祭が同日開催のため、本学駐車場は利用できません。公共交通機関をご利用ください。
流山おおたかの森駅 東口より、スクールバス（無料）をご利用いただけます。

今回のフォーラムのテーマは「平和のためにできること」です。今をときめく、フォトジャーナリストでノンフィクション／写真絵本作家の大塚敦子氏をお迎えして、お話を聞きます。子どもも大人も学生も、お気軽に学園祭とあわせてご参加ください。

私の取材テーマは、お互いのいのちを尊び、平和で、誰も置き去りにしない社会をつくるための試みです。人と動物の絆には人の心を開き、そのような社会に近づけるための大きな可能性があります。難病と生きる子どもたち、虐待を受けた子どもたち、犯罪や非行をした人たち、そして戦争で破壊された社会などを再生するために、日本や世界でどのような取り組みがおこなわれているのか、私が撮った写真や本をとおしてお伝えしたいと思います。

<大塚敦子氏プロフィール>

1960年生まれ。上智大学文学部英文学科卒業。フォトジャーナリスト、ノンフィクション／写真絵本作家。パレスチナ難民地区、湾岸戦争などの国際紛争の取材を経て、死と向き合う人びとの生き方、自然や動物との絆を活かして、傷を負った人や紛争後の社会を再生する試みなどについて執筆。『さよなら エルマおばあさん』（小学館）で、2001年講談社出版文化賞絵本賞、小学館児童出版文化賞受賞。コミュニティ・ガーデンによる内戦後のボスニアの平和構築を描いた「平和の種をまく ボスニアの少女エミナ」（岩崎書店）が2008年青少年読書感想文コンクール小学校高学年の部の課題図書、難民加速度病院小児病棟でのセラピー犬と子どもたちの交流を描いた『犬がまる病院』（角川書店）が2017年高校生の部の課題図書に選定。『（列車内）で盲導犬を育てる』（岩波ジュニア新書）、『地雷のない世界へ はたらく地雷探知犬』（講談社）、『いつか帰りたいぼくのふるさと 福島第一原発20キロ圏内から来たねこ』（小学館）など著書多数。

ホームページ：www.atsukophoto.com

問合せ先 江戸川大学企画総務課
〒270-0198 千葉県流山市駒木474
TEL:04-7152-9908（平日9時～17時） FAX:04-7153-5904
e-mail kodomoc@edogawa-u.ac.jp

大空は
明日へつづく
みんなの学校
出演:大空小学校のみんな
minna-movic.com
大賞
優秀賞
東京グランプリ
ジャーナリズム賞
ギャラクシー賞
民放技術賞
優秀賞
ふつうの公立小学校の　みんなが笑顔になる挑戦
不登校も特別支援学級もない　同じ教室で一緒に学ぶ
文部科学省特別認定
第9回江戸川大学こどもコミュニケーションフォーラム『みんなの学校』上映会
開催日：2019年11月3日(日)　11:00開会　11:10上映開始（上映時間106分）
会　場：江戸川大学駒木キャンパス　B棟1階　メモリアルホール
※学園祭が同日開催のため、駐車場は利用できません。公共交通機関をご利用ください。
流山おおたかの森駅東口よりスクールバス（無料）をご利用いただけます。
会場へのアクセス詳細はedodai.jpより交通アクセスをご覧ください。